

令和6年度 伊江村学力向上推進学校教育部会実践報告書

伊江中学校

I 目 標

生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む

～学校・家庭・地域・行政の連携を通して～

II 基本方針

- 1 家庭・地域と連携・協力し、基本的な生活習慣を形成する。
- 2 「島建ち」を意識し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけさせ、生涯にわたって能動的に学び続けることが生徒を育成する。
- 3 開かれた学校として学校教育方針、各教科テーマを家庭・地域と共有し、学校評価をもとに教育活動の改善につなげる。
- 4 家庭・地域・行政機関と連携し、生徒一人一人を尊重し、個性に寄り添った取組を推進する。

III 取組の重点

- 1 授業改善を通じた「確かな学力」の向上
 - (1)ICT活用した伊江島スタンダードによる授業展開の確立
 - (2) 諸検査結果の課題解決に対する教材研究、指導法の工夫・改善
 - (3) 講師を招聘し、授業研究会を通して授業力向上を図る
 - (4) 互見授業を行い、PDCAサイクルを活かした授業力向上と同僚性を高める
 - (5) 学習を支える力・自学自習力の育成
 - (6) 共感的な人間関係を育成し、支持的風土のある集団づくり、自主性・自律性、自治能力の育成
 - (7) 地域、教育行政と協力した組織的な学力向上に係る取組
- 2 家庭・地域・行政との連携による「生きる力」の育成
 - (1) 地域行事への参画で豊かな心と郷土愛を育成する
 - (2) 「ふるさとが語れる国際人・グローバルな人材」の育成
 - (3) キャリア教育を通じた「島建ち」教育の充実
 - (4) 地域・他者との交流や体験活動を通し、道徳心、表現力等豊かな人間性の育成

令和6年度 伊江村立伊江中学校スクールプラン

学校教育目標

自ら学び自ら考える生徒 心豊かで思いやりのある生徒 たくましくねばり強い生徒

校 訓 不撓不屈

学校経営目標

『生徒一人一人が夢や志を抱き、自分らしさを輝かせる学校』をめざす

知

- ① 伊江島スタンダードによる授業実践の充実
- ② GIGA スクール構想を生かした ICT の活用
- ③ 特別支援教育の視点を生かした授業づくり
- ④ 言語活動を充実させて、思考力・判断力を高める

徳

- ① 教育相談の充実を図り、いじめを許さない集団、あたたかい雰囲気
の集団づくり
- ② ボランティア活動、福祉体験、部活動の推進
- ③ 生徒が主体的に取り組む学校行事
- ④ ふるさとを愛し誇りに思う心を育てる

体

- ① 部活動を活性化させ、自己有用感や達成感が持てる生徒を育成する。
- ② 食に関する意識を高め、実践意欲を育てる。
- ③ 保健安全指導の充実
- ④ 感染症予防対策の徹底

連携

- ① 保幼小中連携の積極的推進
- ② 地域人材の積極的活用
- ③ 各種たより・HP による情報発信
- ④ 地産地消の取り組み
- ⑤ 地域行事への積極的な参加

【研究主題】

『伊江島スタンダード』の構築と支援指導の実践
～ 個別最適な深い学びと対話的な学びを通して～

協働する教師集団【チーム伊江中】

- 生徒理解に努め、生徒のよさを引き出し伸ばす教師
- 責任感と使命感を持ち、情熱のある教師
- 研究と研修に努め、同僚と語り合い支え合える教師
- 保護者・地域と連携し、相互理解に努める教師

V 取組実践

1 授業改善を通じた「確かな学力」の向上

(1) 伊江島スタンダードによる授業展開の確立

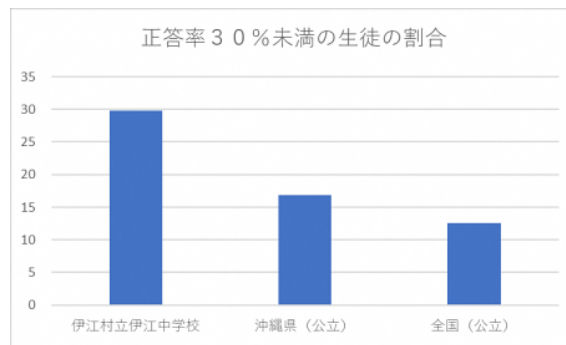
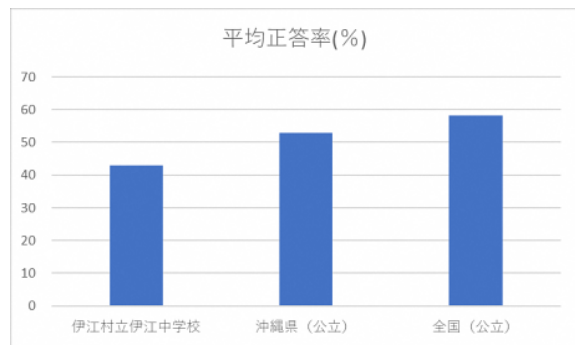
伊江島スタンダードは下記の通り提言さ伊江村の子供たちは、15歳になると島を離れる。それまでの間に島の将来を担う人材としての「縦の絆活動」によるリーダー育成、ふるさとの良さを醸成する「ふるさと教育」ふるさとを語れる国際人を育成する「グローバル教育」を推進し、「島立ち」から「島建ち」に向けて「生きる力」を育むことを目標に「伊江島スタンダード」が作成された。

各教科における授業スタイル（授業の流れ）を伊江島スタンダードで統一することで、生徒が主体的に学び、級友と意見交換しながら自分の考えを確立し、他者の意見を受け入れながら自分の考えを広げ深めるという学習過程を身に着けさせるための授業改善を図っている。

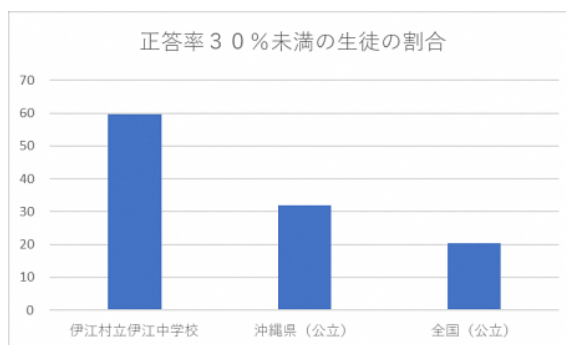
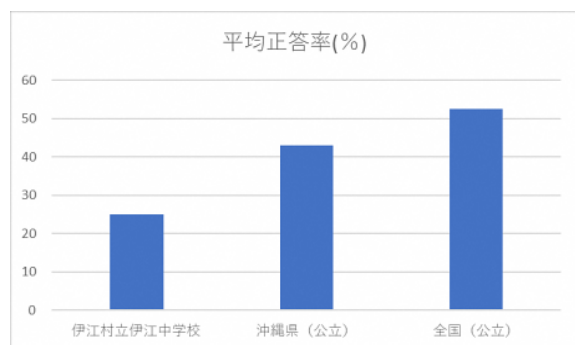
年度毎の学力差は大きい、全ての学年において、個別最適な深い学びと対話的な学びを支援する授業づくりを行った。

77期生（令和4年度入学生） 令和6年度全国学力学習状況調査結果

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
伊江村立伊江中学校	47	6.5 / 15	43	7.0	2.8
沖縄県（公立）	13,667	8.0 / 15	53	8.0	3.4
全国（公立）	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4



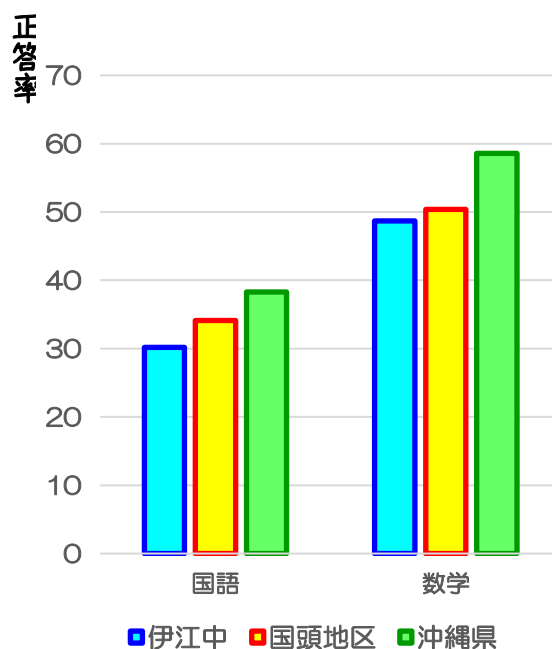
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
伊江村立伊江中学校	47	4.0 / 16	25	4.0	2.9
沖縄県（公立）	13,674	6.9 / 16	43	7.0	4.0
全国（公立）	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1



78期生（令和5年度入学生） 昨年度到達度調査からからの平均点の推移

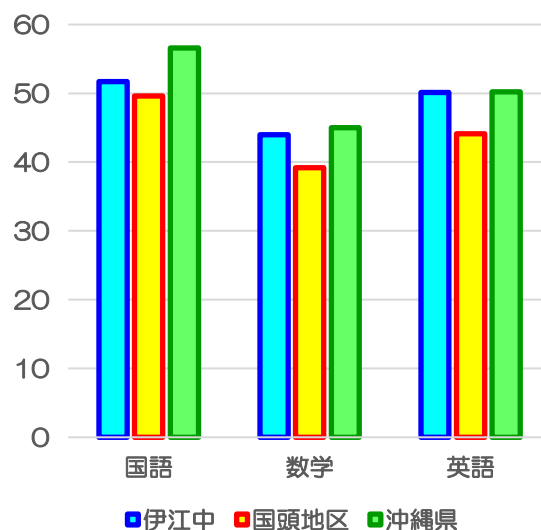
令和5年度 学びの確かめ
(令和5年6月実施)

学年	78期生(中1の6月)	
教科	国語	数学
伊江中	30.2	48.7
国頭地区	34.1	50.4
地区との差	-3.9	-1.7
沖縄県	38.3	58.6
県との差	-8.1	-9.9



令和6年度 沖縄県到達度調査
(令和6年6月実施)

学年	78期生(中2の6月)		
教科	国語	数学	英語
伊江中	51.7	44	50.1
国頭地区	49.6	39.2	44.1
地区との差	+2.1	+4.8	+6.0
沖縄県	56.1	45	49.7
県との差	-4.4	-1	0.4



77期生（令和4年度入学）の生徒においては、基礎的・基本的な知識に躓きが見られる生徒が多く見られ、これまでの学力調査においても沖縄県平均と大きな差があった。生徒間の学力差も大きく、支援が必要な生徒も多くいるが、対話的な授業や、支援員の活用、習熟度別学級や補修の設定など様々な手立てを行い、学力の向上に教師一丸となって努めた。

78期生（令和5年度入学）の生徒においては、1年生6月時には地区平均に満たなかった正答率が、1年後には全ての教科で地区平均を超える結果となった。基本的な知識・技能の定着に課題が見られるものの、対話的な学びを通して、思考・表現・判断する力が身に付き、粘り強く課題に取り組む姿勢が見られた。

次年度はICTのスタンダードを取り入れ、生徒達が一層「自立した学習者」へと成長できるよう、指導の工夫を図る。

Ⅵ 授業研究について

1 互見授業について(1人年2回)

(1)授業参観の視点

- ①伊江島スタンダードを軸とした授業を行っているか
つかむ・考える・深める・まとめ・振り返り
- ②ペア・グループ学習を通して、生徒と生徒をつないでいるか
- ③ICTを活用し、個別最適な学び・協働的な学びが展開されているか
- ④授業のどの場面で生徒指導の4つのポイントを生かしているか
- ⑤指導と評価の一体化が図られているか

(2)互見授業の様子(①授業の様子、②授業の振り返り)



2 講師を招聘した授業研(①数学、②英語、③社会、④理科授業反省会)

- (1)国語科講師 沖縄市教育委員会指導主事 高江洲 亮 先生
- (2)数学科講師 沖縄市立宮里中学校教諭 笠井潤也 先生
- (3)英語科講師 名護市教育委員会指導主事 阿波根 明美 先生
- (4)社会科講師 宜野座村教育委員会指導主事 伊差川 仁先生
- (5)理科講師 東村立有銘小学校校長(国頭地区理科教育研究会会長) 前川恒久 先生



Ⅶ 地域と連携した取り組み

1 パーリー体験学習



2 魚料理教室



3 人権講話

(1)比嘉正央先生による講話



(2)Soul Camp Hanzoさんによる講話



4 進路講話

(1)二所ノ関親方による講話



(2)アッキーナさんによる講話

